

氏 名	金 城 八津子
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 3 3 号
学位授与年月日	平成22年3月25日
学位論文題目	離島に居住する独居高齢者の“生活の術” ～大腿骨骨折術後の後期高齢者を対象として～

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	133	(ふりがな) 氏 名	きんじょう やつこ 金 城 八津子
修士論文題目	離島に居住する独居高齢者の“生活の術” ～大腿骨骨折術後の後期高齢者を対象として～		
<p>【研究の目的】 離島に居住する独居高齢者が大腿骨骨折術後に、どのような方法や手段（“生活の術”）により、生活を成り立たせているのかを異文化の視点から明らかにする。これにより異なる文化や習慣を考慮する看護実践についての示唆を得る。</p> <p>【方法】 情報提供者自宅に宿泊して寝食を共にしながら、参加観察とインタビューにより平常時の暮らしぶりの情報を収集した。情報提供者は、沖縄県B市に居住する大腿骨骨折術後の独居後期高齢者8名で、術後経過順調な方（ADL及び自立歩行が回復過程にある方）とし、認知症状のある方および、認知症と診断されている方は除外対象とした。調査期間は平成21年2月～平成21年12月で、調査地滞在日数は67日間であった。フィールドワークで収集した情報はフィールドノートに記述し、暮らしの中で特記すべき行動や事物について承諾を得て写真撮影を行った。また、データ分析の段階で不足していると思われる情報は再度インタビューにて収集し、他の情報提供者の参加観察によって検証を行った。</p> <p>【結果】 離島に居住する大腿骨骨折術後の後期高齢者の“生活の術”は、以下のように8つのコアカテゴリーと、24のアクシャルカテゴリー、70のサブスタンスコードが抽出された。8つのコアカテゴリーは、【逆らえない南国の自然を受容】、【ひとり身の境遇で自らを鼓舞しつつ選んだ生活】、【継続して働くことが誇り】、【旅に出ている家族による精神的支えと経済的支え】、【多くの信仰から今の自分に合ったものを選択】、【生活を補完する公的支援を見極めて利用】、【互酬性が根付いている土壌】、【しがらみのあるシマ社会】であった。</p> <p>【考察】 1. B市に居住する独居高齢者は、猛暑や台風といった厳しい自然環境下での生活を受容しなければならず、海上にある島嶼性故に家族と離れざるを得ない境遇にあった。島内外の家族からの支援を受けながら苦境を覚悟して受容するという一方で、生活を送ることができると考えられた。 2. B市には信仰の土壌があり、祖先崇拝を精神的基盤としながらも様々な信仰から自分に適した信仰や方法を選択して信心することで、自らを慰めて心のより所を得ていると考えられた。 3. 大腿骨骨折術後の身体機能低下を補う手段として、シマ社会という地縁・血縁を基盤とした相互扶助ネットワークを用いながら、しがらみを見極める交際術を活用していたと言えよう。 4. 島嶼という有限の空間においては、フォーマルサービスの導入を慎重に行い、従来からの相互扶助であるインフォーマルサービスの著しい衰退をきたさないよう、適切な均衡を保ち長期に渡り継続的、俯瞰的に均衡を把握して地域ケアの質保証を行うことが望ましい。</p> <p>【総括】 本研究では、文化や風土が育んだ精神性および島嶼という地域特性が影響し、“生活の術”を形作っていた。看護者は文化に対する感性を高めて住民の文化的背景を踏まえることで、住民のニーズに適した質の高い看護の提供が可能となる。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。